

NO	平成30年度 総合評価	平成30年度 課題	令和元年度 目標
1	<ul style="list-style-type: none"> 各専門職が2名ずつ体制となり、包括支援センター事業、業務にあたった。 介護予防福祉普及啓発事業、任意事業（認知症対策・介護者支援事業等）の実施と、総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防ケアマネジメントの実施をバランスよく運営することができず、偏った状態であったと思う。 どの事業も当初に目的、計画をしっかりと確認することでバランスよい状況が図れる。 職員同士が十分に意見交換をし共通理解を図り、連携することで効果的な実施を行う。 時間と機会を十分に活用するために、一人一人が当事者意識を持てるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度の初めに担当する事業実施を確実にを行うために、年間計画を立てる。 地域診断を職員皆で行い、地域の実情を共通認識する。また、定期的に職員間で意見交換をする。 主体的に一人一人が行動できるようにする。相互に根拠を示した意見交換を実施する。漠然と目的のない行動をしないようにする。 医療機関、その他福祉関係者へアプローチし関係構築を心掛ける。 	<p>1) 基本目標</p> <ul style="list-style-type: none"> すこやかプラン・川越市高齢者保健福祉計画第7期川越市介護保険事業計画を推進していく中で、介護予防・日常生活支援総合事業を踏まえ、「介護予防」の視点を重視して取り組み、市と連携し業務や事業を着実に実施し、職員の資質向上を目指していく。 様々な内容の総合相談支援業務には職員の質の向上が重要となる。「地域包括ケアシステムの構築」として、在宅医療・介護連携推進事業の取り組みを積極的に実施しその連携を強化する。 地域ケア会議（圏域別、個別、自立支援型等）の実施により、地域とのつながりを深めながら地域課題を抽出し、生活支援体制整備事業として配置された第1層、第2層生活支援コーディネーターと連携・協力し、第2層協議体の設置等、活動を地域へ広げていく。 <p>2) 重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合相談支援、地域支援事業から各担当地区の地域診断を行う。 各事業開催に向けて、年間計画をバランスよく立案し実施する。 医療・介護・障がい者・生活困窮者等関係者との連携を図る。 地域住民と包括支援センター職員としての立場で関係作りを構築する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防の重要性の周知、自立支援の視点に基づきケアマネジメントを行うことはケアマネ情報交換会や自立支援型地域ケア会議を通し地域のケアマネジャーと学んだがまだ十分ではないと思う。 認知症について早期発見や見守りの必要性についての啓発は認知症サポーター養成講座を定期的で開催し参加者もH29年度に比べ多く認知症について市民の方の関心が高いと思った。 オレンジカフェは7ヶ所中の1ヶ所を自主運営とした。他のオレンジカフェも適宜自主運営への検討を地域のボランティアさんで行っていきたい。 地域包括支援センターの周知については南連絡所の出張相談会では市内各地区の人が立ち止まっていくが最近では地域包括支援センターを知っている人、いもっこ体操に参加している人に会うことが増えてきたように思う。引き続き周知を行っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標の立て方や達成後の支援について学ぶこと、個別事例から導き出された地域課題へどう取り組むか考える必要がある。 認知症予防について、医療機関と連携しての支援はまだ十分に連携できていないため引き続き努力したい。 自主運営していない他のオレンジカフェも、適宜自主運営への検討を地域のボランティアさんで行っていききたい。 	<p>1) 基本目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしでも認知症になっても高齢者が安心して生活ができるような地域づくりのため関係機関との連携強化を行う。 気軽に相談できる地域から愛されるセンターを目指す。 <p>2) 重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護予防の重要性を周知、自立支援の視点に基づきケアマネジメントを行う。 認知症について早期対応や見守りの必要性について啓発を行う。医療機関と連携しながら認知症の人を支援していく。認知症の方でも地域で暮らして頂けるような地域作りを住民と考える。 オレンジカフェは6ヶ所開催。ボランティアさんと一緒に運営する。今年度1ヶ所は自主運営に切り替えて支援を継続。 出張相談会や出前講座、各事業等を通して地域包括支援センターの周知を進め、地域住民に対してより身近な信頼された地域包括を目指す。 相談には迅速丁寧な対応を行う。 担当圏域ケア会議であるくらづくりの会を通し医療機関や介護関係の事業所、民生委員等の地域の人たちとの連携を強化する。

NO	平成30年度 総合評価	平成30年度 課題	令和1年度 目標
3	<p>・スタッフ全員が自分の役割や相談業務をこなし、専門職としての視点に基づいた意見を出し合い、お互いに相談、協力しながら各事業に取り組むことができたことは評価できる。スタッフ一人一人がチームで対応する意識を持っていることは当センターの強みであると考えます。</p> <p>・機能強化型の地域包括支援センターとして、理学療法士を中心に、すこやかプランに基づいた川越市の介護予防の視点を日頃から意識して、相談業務や事業に取り組むことができるようになってきている。</p>	<p>・日々の相談業務や事業を行う中で、特に認知症の方とその家族の地域での見守り支援、男性介護者の孤立や精神的負担を軽減するための支援や集いの場の創設、独居の方や認知症の方の医療につなげる支援等、地域の課題は見えてきているように思う。</p> <p>・課題は、川越市全体の課題とも言えるものであり、担当している各支会や自治会といった、もっと小単位での地域の特性を検証し、理解し、その地区ごとに見合った課題の解決策を見出すことが出来ていない。地域住民を巻き込んでの話し合いの場を持つことが必要であり、そのためには地域住民と顔の見える関係づくりや他機関との協働を図り環境を整えていくことが必要である。</p> <p>・相談件数、介護予防支援等の担当件数、事業の内容をこなすことに懸命で、内容の評価や解決機能の構築が遅れてしまう。また、書類提出や記録の入力の不十分さや遅れも課題となっている。今後しっかりと丁寧な対応、支援が行えるようにするためには業務の整理を行っていくことが必要である。</p>	<p>1) 基本目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの構築に向け、地域特性を把握し、医療機関や関係機関と連携し、地域ケア会議を充実させ、地域住民とともに情報共有と協働をしていく。 <p>2) 重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者や認知症の方への健康を意識した取り組みを地域の課題とし、医療機関や多職種等関係機関、地域住民との連携を深めていく。 ・認知症の方とその家族への地域でのみまもりや支援ができるよう、ネットワークづくりをしていく。 ・介護者（特に男性）の孤立や精神的な負担をなくすための支援や集いの場の創設ができる取り組みを行う。
4	<p>・多問題を抱えた独居の方が自宅で看取りとなったケースがあり、家族・地域住民・医療を含めた関係機関の連携で可能となったと言える。地域包括ケアシステムの構築に近づいた形となった。</p> <p>・家族を含めた多重問題ケースや重度化した認知症のケースなど複雑化した支援が今年度も多かった。地域住民・各行政機関・関係事業者と連携を図りケース支援を行うことが出来た。</p> <p>・自治会の中ではいもっこ体操教室も出前講座も行われていない地域があり働きかけが不足しており実現できなかった。</p> <p>・急激に高齢化率が上昇している地域に向けてオレンジカフェの開催や助け合いの会が発足できたことが評価としてあげられる。</p>	<p>・重度化した認知症の方への支援が困難を期しており、認知症の予防や地域理解など周知を含めて多彩な事業が必要と考える。</p> <p>・引き続き地域との連携を重視し住民の方々が問題意識をもっていただけよう努めていきたい。</p> <p>・相談窓口としての周知がまだ不足している。集合住宅や高齢化率の高い地域を皮切りに早急に周知活動を行う必要がある。</p> <p>・「500メートル歩ける身体づくり」と課題提起している。自主グループへは継続的な活動ができるよう後方支援を行い、いもっこ体操教室も出前講座も行われていない自治会へは（急激に高齢化率が上昇地区など）出前講座やいもっこ体操が行えるよう地域に働きかけて行いたい。</p> <p>・介護の仕方や相談、アドバンスケアプランニング、グリーフケアなど多彩な内容が求められてきている。地域の方々が今とこれからを求めているような事業展開をしていきたい。</p>	<p>1) 基本目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対してより身近な信頼された包括を目指す。迅速丁寧な対応を行う ・行政、介護、医療、地域関係者、他関係機関との連携を強化し包括ケアシステムの構築を図る ・「高齢者が住続ける地域」を住民主体で考え、実現できるよう支援していく ・「500メートル歩ける身体作り」を介護予防の目標と今年度も掲げる、閉じこもりを予防する <p>2) 重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の個々へ向けて包括の周知、啓蒙活動を再度強化する ・少し先を見据え、アドバンスケアプランニングやグリーフケアなど必要な情報の発信を行う ・地域づくりに向けて地域住民中心の話し合いをもとに生活支援体制整備を進めていく ・自治会へ出前講座を開催し外出の機会を増やし、介護予防を行う。

NO	平成30年度 総合評価	平成30年度 課題	令和1年度 目標
5	<p>・2018年は、総合相談の実件数が50～70件、延件数は毎月500件超と相談件数は微増の傾向にある。地域住民への地域包括支援センターの認知度が進んでいることを示している。</p> <p>・相談の内容では、多くは介護保険の要介護認定申請に関する相談であるが、認知症関連のご近所トラブルや「ゴミ屋敷」問題等、深刻な事例が増加してきている。こうした問題を解決するために、地域の自治会や民生委員等との「顔の見える関係」づくりに力を注いだ。具体的には、高階支会5ブロックに対応した職員の担当地区制と担当圏域ケア会議を実施し、自治会役員訪問や福祉懇談会及び民生委員協議会への参加等の関係づくりをすすめた。</p> <p>・担当圏域ケア会議は、生活支援体制整備（地域の助け合い）の問題をテーマにした講演と高齢者の移手段の問題を取り上げた事例報告をもとにグループ討論を行った。3回開催の会議には、自治会長10/13名、民生委員34/34名、介護事業所20名、他行政等の参加をいただき、地域における助け合いの必要性和相互理解を深めることができた。特に、2018年度は地域で唯一の病床を持つ傍島外科の院長、看護師長、事務長に参加いただくとともに、第3回目の会議には、それに加えて在宅専門診療所オレンジクリニック院長にも参加いただき、医療との連携も大きく前進できた。</p> <p>・自治連高階支会が12月に発行した「支会ニュース」には、地域包括特集の記事を2頁にわたって載せていただき地域住民に知らせていただけたように、地域・自治会との関係も深めることができた判断している。</p>	<p>・2018年度の担当圏域ケア会議「ネットワークの会」の中で出された意見をまとめ、各方面にその「声」を届け、市の様々な行政計画反映させられるようなアクションをすすめる。</p> <p>・生活支援第2層コーディネーターと協力し、第2層協議体づくりと第3層の助け合いボランティア組織づくりに取り組む。</p> <p>・「待ち」の総合相談から、地域に出かけ民生委員と協力し「気になる方」の情報共有と見守りと早期対応ができるようなネットワークづくりに取り組む。</p> <p>・地域の方々の自主性・主体性を尊重した自立型オレンジカフェづくりに取り組む。</p>	<p>1) 基本目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活支援体制整備を推進するため担当圏域ケア会議を5ヶ所「全ブロック開催」をすすめる。 民生委員協議会とのパートナーシップ・協力協同の関係を深めるため、「ブロック単位での情報交換」の場づくりをすすめる。 <p>2) 重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 高階支会5ブロック、各ブロックごとの「地域分析」を行う。 生活支援体制第2層コーディネーターに協力し、高階地域内に「活動拠点」を築き、諸団体・ボランティアグループ等の連携した取り組みをつくることに協力する。 オレンジカフェを新たに2ヶ所開設し5ヶ所とする。運営方法を「3者構成（包括・民生委員・施設代表）型」又は「自主運営型」のカフェ運営に改善する。
6	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の増加に伴い認知症高齢者の増加がみられます。 独居高齢者や老老世帯も多くなっております。 精神疾患を抱えた高齢者の増加がみられます。 	<p>・支援が必要ではないかと周囲の判断とは裏腹に、ご自身では支援は必要ないと認識している市民(高齢者)との温度差が、見え隠れする生活の課題を抽出する難しさを感じます。</p> <p>・自立支援相談センターや、障害者支援相談センター、社協、介護保険課、地域ケア推進課 等との連携をとりながら、住民のニーズに合わせた生活環境が整えられるよう必要な支援の見極めの難しさを感じます。</p>	<p>1) 基本目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の方が住み慣れた地域で、安心して健やかに生活を過ごされるように、高齢者に優しい街づくりを支援する。 <p>2) 重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 健やかに過ごされるよう「予防」の観点を大切にする。 安心して過ごされるよう「地域」を大切にする。 尊厳のある生き方を尊重し「自立支援」の観点を大切にする。 課題解決には「生活モデル」の観点を大切にする。 共生を念頭に「コミュニティ」の観点を大切にする。 在宅生活の継続を図るため「在宅医療介護連携」の観点を大切にする。 認知症の予防と症状の進行を抑える活動を意識していく。 高齢化してきた精神疾患患者への生活を関連機関との連携により支援する。 介護支援専門員の後方支援に努める。 高齢者の権利擁護事業に、関係機関と共に取り組む。

NO	平成30年度 総合評価	平成30年度 課題	令和1年度 目標
7	<p>・計画した事業の計画についてはほぼ予定通り実施することが出来た。担当圏域ケア会議や、自治会への出張相談会の実施など、今年度も引き続き自治会との繋がりを意識した1年であった。民協への参加も続けてできた。</p>	<p>・一番身近な地域の見守りの目としての役割を持つ自治会や民生委員との連携を図りながら、地域づくりを行いたい。</p> <p>・在宅医療・介護連携推進事業、生活支援体制整備事業等についても、推進の流れに伴って昨年度と比べてより事業への協力や業務での連携が密なものとなってきており、来年度も意識して連携を図りたい。</p> <p>・自主グループ立ち上げの行えていない地区や、高齢化が著しい地区、相談が上がってきにくい地区など担当圏域の中でも重点的にアプローチしていきたい。</p>	<p>1) 基本目標</p> <p>・「誰もが住みやすい地域」を目指して、今年度も地域のニーズに合わせた事業を工夫しながら展開していく。</p> <p>・顔の見える地域のネットワークを大切に、一つ一つの相談にフットワーク良く、誠意をもって対応する。</p> <p>・相談の傾向として多世代・多問題が増えていることに鑑み、他領域（障害・貧困・精神など）との連携・社協（コミュニティソーシャルワーカー・生活支援コーディネーター）との連携を、またCCN川越の一員として、医療・介護連携を意識していく。</p> <p>2) 重点目標</p> <p>・昨年度目標にしていた地区でのいもっこ体操教室、自主グループ立ち上げ実施について、今年度も、タイミングを見て色々な方面からの働きかけを続けていき開催の足掛かりをつくる。</p> <p>・また、高齢化が著しい地域、相談が上がってきにくい地域など担当圏域の中でも重点的に関わりが必要な地域について、自治会等へ相談を行いながら、普及啓発・各種講座などの開催や出張相談会などを提案するなど、繋がりを考えていく一年にする。</p> <p>・社協の2層生活支援コーディネーターとの連携を深める。個別のケースだけに留まらず、地域の資源や課題の情報共有をしながら地域づくりを共に進めていく。大東地区の中でもそれぞれの自治会・地域の特色や課題に合わせた支援を考えていきたい。</p>
8	<p>・基本目標として「我が事・丸ごと」の地域づくりについては、圏域包括ケア会議でテーマとして取り上げ、みんなで学んできた。</p> <p>・多世代・多領域にわたる生活課題の相談に連携して対応できるよう、関係機関と顔の見えるネットワークづくりを意識してきた。</p>	<p>・介護予防の取り組みとして、地道に老人会やサロンなどの地域の集いの場へ参加してきたが、自主グループの立ち上げ支援は一か所であり、普及啓発への取り組みの継続を実感している。</p>	<p>1) 基本目標</p> <p>・「老人にも明日がある」の法人設立理念、地域・社会貢献の理念に基づき、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症施策や介護予防施策への対応のみならず、状態に応じた介護サービス・保険・医療・福祉の向上、安定のために必要な援助、支援を行う機関として役割を担っていく。具体的には、「我が事・丸ごと」地域の多世代・多領域に渡る課題について連携して支援するネットワーク作りについて、継続して取り組んでいく。老人会や地域のサロンなどへの積極的な参加や、住民と協働した事業への参加に努めていき、地域のニーズの把握と改善に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>2) 重点目標</p> <p>・運営体制の面においては、書類の整備・管理が十分とは言えず、効率的な業務を遂行していく上でも、データ管理への移行に取り組んでいく。</p>

NO	平成30年度 総合評価	平成30年度 課題	令和1年度 目標
9	<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケースについては民生委員や自治会、医療・介護・福祉の関係機関と連携し、相談対応に努めることができた。 ・高齢者個人を取り巻く環境が複雑化してきており、細部にわたる地域課題を把握し目標設定することが難しかった。 ・担当圏域地域ケア会議でテーマを設定し、地域課題についての検討を重ねることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者個人を取り巻く環境が複雑化している。単一の問題ではなく、経済的困窮、認知症、独居、高齢者世帯、精神疾患、機能不全に陥っている家族、虐待疑い等のいくつもの問題が絡み合うケースが増えている。 ・身体的機能の低下、閉じこもりから地域で孤立している高齢者の相談が増えている。 ・認知症高齢者の増加に伴い、徘徊の対応や詐欺被害防止などに地域で取り組めるような働き掛けを進めていく必要がある。また、問題を抱える高齢者のご家族の支援にも日常的に取り組んでいかなければならない。 ・安否確認などの緊急対応も多く、民生委員をはじめ関係機関との連携強化が必要となってきている。 ・直接の支援者となっているケアマネジャーや民生委員に対する精神的支援（グリーフケアなど）も必要となってきている。 	<p>1) 基本目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会を基本に地域の関係者と連携し介護予防や高齢者の生活を支える取り組みを拡げていく。 ・高齢者が住み慣れた地域のなじみの環境で生活が継続できるよう総合的・継続的に支援する。 ・職種ごとの専門性を活かしつつ、情報を共有し連携することで、地域や高齢者のニーズを適切に把握して支援する。 <p>2) 重点目標</p> <p>①介護予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種事業の開催に加えて、身体的機能低下や閉じこもりから地域で孤立している高齢者について、担当圏域地域ケア会議で検討していく。 <p>②生活支援体制整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の見守り活動を担っている団体への出前講座を通じた支援を行っていく。 ・第二層生活支援コーディネーターとの連携を密にするため、各種事業への参加連絡を行っていく。 <p>③認知症施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者の増加に伴い、徘徊の対応や詐欺被害防止などに地域で取り組めるような働き掛けを進める。また、問題を抱える高齢者のご家族への支援も取り組んでいく。 <p>④民生委員とケアマネへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の定例会への参加や居宅介護支援事業所への訪問を通じ、お互いに顔の見える関係性を強固にし、相互に相談しやすい環境づくりを促進する。 ・支援を要する方々の直接の支援者となっている民生委員やケアマネジャーの相談窓口となり、情報の共有や支援のサポート、そして時には気持ちに寄り添い精神的なフォローも担っていく。 <p>⑤医療機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が継続的に適切な支援を受けることが出来るためにも、医療機関と連携を密にとり、情報の共有に努めていく。 ・生活の支障となる経済的困窮、認知症、独居（天涯孤独）、精神疾患、機能不全家族、虐待など様々な問題が絡み合うケースが増えており、安否確認を求められることも増加していることから、受診、入院、退院時などに病院の相談窓口との連携を促進する。 ・未受診者や受診拒否を貫く方への対応もあり、往診医との連携強化に努めていく。